

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107827		
法人名	医療法人 中山医院		
事業所名	グループホーム四季の里		
所在地	岡山市北区西山内101-2		
自己評価作成日	平成26年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成26年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した医療機関が母体で、日ごろから顔なじみの関係が出来ている。時間がゆったりと流れる様な雰囲気作りにも努めており、その時間の中で、利用者個人個人の意思、要望に寄り添い、臨機応変な対応が出来る様に努めている。スタッフ個人個人の意見を大切に、様々な視点から柔軟な対応が出来るように努めている。グループホームの特性をどう生かすか、スタッフ全員で考え、工夫し日々のケアに努めている。又ターミナルケアについて学ぶ機会を設けており、知識と経験を積み、多くのスタッフが立ち会える体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」をモットーに地域に根差した暮らしの支援に努めています。入居者は地元の方が多く、また職員も地元出身者が多く母体の医院も隣接しており代表者の医師・看護師とも気軽に話し合える関係が出来ています。地域密着型事業所として、グループホームの他に小規模多機能型居宅事業所、又ディーサービスセンターもあり総合的に介護支援の充実が図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人が理念を把握しそれぞれのケアに努めている。	グループホーム独自の理念を掲げ「家庭的な雰囲気の中でサービスを提供していきたい」、業務に縛られることなく入居者一人ひとりに合わせてケアを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、理容院の利用、地域の夏祭りの清掃活動、秋祭り(四季の里祭り)を通して日常的に地域の一員をして交流している。地域の婦人会のボランティア活動にも参加して頂いている。	町内の夏祭りには事業所から出店を出して参加し、事業所の秋祭りは町内にチラシを配ってたくさんの方に参加してもらっています。また町内の清掃作業等にも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を招いたり、施設行事(四季の里祭り等)地域の人々に向けていかしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者サービスの実際評価へ取り組み状況について報告、話し合いを行っている。参加者からは、地域サービス向上へ活かす様努めている。	民生委員、地域包括の職員等参加者から意見、要望を聞きサービスの向上に取り組んでいます。	町内会長から行事への参加など、前向きな発言があった様なので地域との協力体制の強化に取り組まれる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、市に伝えながら協力関係を築く様に取り組んでいる。	市の担当者と運営推進会議の時など機会をみて関係作りに繋げています。入居者の受け入れなど事業所の様子を伝えながら協力関係に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ユニット会議、カンファレンスをもうけ、身体拘束に関して話し合いをしている。入口の扉の鍵もかけないように努力している。	虐待防止委員会を設置しており拘束の事例を職員に回覧しています。夜間のみ安全のため玄関を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に、勉強会で学び、虐待防止の徹底に努め、細かい事でも常に注意を払い、スタッフ間の報告・連絡・相談を徹底し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごと職員へ説明を行っている。現在活用は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などに重要事項説明書を元に家族の不安・疑問点を伺い、理解・納得を図り、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の状況を伝え、気がかりな事、気付いた事を聞きだす様努めている。外泊した際の入居者の様子を聞き、ケアプランや日々の介護に役立てている。	入居者が以前どのような生活をしていたのか家族から情報を頂き、その人らしい生活の支援に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議を行い、その場で出た、職員の意見や提案を月一度の管理者会議で検討、反映を行い全体の質の向上に努めている。	職員会議に代表者が参加することがあり設備の改善、業務内容の変更など現状に合わせ意見や要望を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政から来た情報などはスタッフに情報を回し参加してもらう様に促している。又、セミナー等の情報も集め参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所に来た広告や月刊誌を見たり、インターネットで情報を集めている。研修会に参加し、交流と情報交換にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった場合は、必ず本人に心身の状態・思いに向き合いスタッフ全員で内容を共有した上で、本人に受け入れられる様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	便りを送ったり、面会時に声掛けをし要望等耳を傾けながら関係作りに努めている。電話で本人の様子を伝え、不安を軽減するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で、信頼関係築きながら必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの家族という雰囲気を大切に一人一人のスタッフが入居者を過ごさせてもらっている。作業、調理、掃除など教養せず本人の意向に添って一緒に行う様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの共有に努め、本人と一緒に支える為家族と同じ様な思いで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、理容院などの利用など、地域の馴染みの関わりを大切にしている。又、知り合いの方が来られても、次回面会に来やすい雰囲気づくり、対応に努めている。	入居者の知り合いの来所時、集合写真を撮り家族了解のもと皆さんに配るなど、地元出身の職員が多いので入居者との関係が深く地元の知り合いとの繋がりをサポートしています。	慣れ親しんだ関係の中で見落としはないか、日々新鮮な気持ちを大切にしたい関係継続に努められる事を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ、食事時間などスタッフも一緒に会話を待つ様に努め、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。又、食事する際の座席も工夫して決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても何かあれば相談してもらう様本人・家族につたえている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから真意を組みとったり、それとなく確認するようにしている。情報はスタッフ全員で共有する様に努めている。	職員一人ひとりが持っている情報を共有し入居者の思いや希望を把握するように努め、また家族とも相談しながら本人本位に検討する様努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中からその人の生活歴や暮らし方をくみ取る様に努めている。家族や面会に来られた知人の方からも聞く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を細かく観察し、個人記録に記入、申し送りノートを活用し状態の把握が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを行い利用者の情報を共有、理解し援助内容等話し合い、職員のチームケア確認を互いに図り、介護計画に反映し、作成している。	職員一人ひとりが持っている情報を共有し家族や関係者と話し合い、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく個別記録に記入し、常にスタッフが把握し、問題点を話し合う様に努めている。申し送りノートを活用し日常的に問題の共有、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院、公民館、スーパー等馴染みのある資源を利用し、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、医療法人事業所主体である為、総合病院と入院・往診連携、歯科、耳鼻科、皮膚科等の医療機関関係も確保している。家族・本人通院等も選択は自由。	入居者は地元の方が多く母体の医院がかかりつけ医の方がほとんどです。往診や緊急時の対応にも適切な医療支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りで報告・相談を毎日行っている。又、特変時にその都度対応してもらえる様な体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院を設けており、常に情報交換や相談に努め、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全体が申し送りノート・介護日誌・記録を活かし、看護師・スタッフが協力し合って支援に取り組んでいる。又、早い段階から本人・家族と話し合いを行い取り組んでいる。	家族と医師が話し合う機会が多く、どのように終末期を迎えるのか早い段階から話し合っており、事業所で看取りを行う入居者が多いようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の救急対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的計画を立て、年2回(内1回は夜間想定)定期的に地域の消防団と連携し避難訓練を実地している。足守川の氾濫時のマニュアルも作成し、周知している。	火災、水害のマニュアルに添って、地域の消防団と協力して訓練を行っています。水害時は2階のユニットに避難するようにしています。	これから大きな地震が予想されています。早急に地震対応のマニュアルを作成し、地域協力で共に訓練に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた声掛けや対応を心がけている。職員を孫だと思っている入居者には孫になりきった対応をするなど。	入居者に合わせて呼び名や声掛けの方法を変え、人格を尊重した接遇を心掛けています。また、全職員で対応を話し合い共有に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を表しやすい雰囲気作りに努め、本人の能力にあった支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしないように心がけている。その日、その時の体調や気持ちに配慮した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的には本人の意思で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝う様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者も同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。準備や片付けも本人の意思をくみ取り積極的に行ってもらっている。	栄養管理された食材で入居者と一緒に作っています。又、臨機応変に自由に献立以外の食事作り(行事食等)で食事の楽しさを支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と1日の摂取量を把握、個別に高カロリー補助食を摂取する方もいるが、これだけに頼らず本人の好みや食べやすい物で工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に口腔ケアを促し、介助が必要な方は手伝わせてもらい、清潔保持に努めている。夜間は毎晩義歯洗浄剤を使用している。歯ブラシ、コップは週1回消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけ、個々の排泄リズムを把握し、改善に取り組んでいる。声掛けや、誘導により、自立に向けた支援を行うよう取り組んでいる。	入居者一人ひとりのサインを把握し、職員はその都度声掛けをしてトイレ誘導し、自立に向け支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物・乳製品を毎日摂取して頂き、水分補給もこまめにしてもらうなど、個々に合わせて工夫している。散歩等、運動も無理ない範囲で行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否する入居者には声掛けを工夫し無理強いない支援を心がけている。入浴剤や時期によってゆず湯にするなど入浴を楽しめる工夫を行っている。	入居者が安心できる声掛けをして入浴の手順も本人のペースに合わせて行っています。入浴を拒むときには清拭やシャワー浴で清潔を保つようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整、転落防止など安心できる快適な環境作り、本人の希望を尊重した支援をするように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が日々確認し、変更があった時などは、申し送りノートを活用し誤薬等起こらない様に徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようお願い出来るような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の暮らしの中で入居者の様子を見ながら散歩や外への洗濯物干しなど生活に添った外出支援に努めている。	少し離れた洗濯干しの場所まで職員と一緒に歩いて手伝ってもらったり、個別に日常的な買い物や散髪等に出かけ等、その日の天候や体調に合わせた外出支援に努めています。	計画されている季節ごとの外出支援の実現に向け取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は預かっているが、本人で所持している方もいる。希望に応じて一緒に買い物へ行き本人から支払ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は、一緒に郵便局へ行くこともある。電話希望時には時間帯にもよるが支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ全員で工夫・配慮に取り組んでいる。季節の花や、飾り物など。居室やトイレに張り紙標識を作るなどの工夫も行っている。	居場所の配置や居室の表示等気を付け、入居者が居心地よく過ごせる様配慮しています。室温には特に気を付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで談話して頂いたり、中庭へ椅子を出して談話してもらえるようにしている。一人で座りたい方用のソファも用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を持ってきて頂く様に家族や本人にお願いし、安全に居心地良く生活して頂けるようにしている。また、個人の作品(塗り絵、クラフト)など飾ったりしている。	居心地良く過ごせよう本人・家族の希望に添った生活感の居室づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境担当を配置、居室担当制による日常生活点検、及び月に1回会議による情報交換を行い個々に対応した生活作りに努めている。		